

導入事例

bplats® platform edition

ビープラッツ株式会社(大規模Webアプリ／約9,000ファイル)

ビープラッツでは、AMANEXが生成したAI設計ドキュメントとAI Agentを日々の開発サイクルに組み込み、開発者とAIが協調して開発を推進する「AI駆動開発」がすでに始動し、成果を上げています。

7,950 ファイル
+ 1,000 モジュール
(フォルダ)
対象リポジトリ

9,083 件
生成した
設計ドキュメント総数

75 MB
生成されたドキュメント
容量

さらに、調査・影響分析・テスト設計に直結する実務向けの構造化情報も自動生成しています(定数・Enum値の逆引き辞書 4,539件、ルーティング定義 61ルート、Modelリレーション 722件、エラーコード一覧 848件、ユニットテスト一覧 769ファイル／2,568メソッド ほか)。生成物はHTML化され、LLM不要のオフラインでも閲覧できる軽量ビューアとして提供されます。

AMANEXは、クウジット株式会社が開発・提供するAI駆動開発支援基盤であり、事業提携に基づき、ビープラッツ株式会社が販売パートナーとしてお客様にご提案しております。

クウジット株式会社 (https://www.koozyt.com)

クウジットは研究シーズを社会へ実装する事業構想とテクノロジーの会社です。社名の由来である「空」と「実」をつなぐことを理念に、“Curiosity=知的好奇心”と“Imagination=想像力”を原動力に、研究者と共に未来の価値を構想し、社会に届けて参ります。私たちが目指すのは、テクノロジーを社会の良きことに活かすこと。データ分析やAIを最大限活用し課題をひも解き、新しい知を実社会の解決策に変えていきます。その一連のプロセスを知的好奇心に満ちたワクワクする挑戦と捉えております。研究から芽生える知の種をテクノロジーとデザインで育み、社会の中で循環させる。クウジットは、未来に貢献するイノベーションを共創する“Research to Society”のハブであり続けて参ります。

※本カタログに記載の社名、ロゴ、サービス名、サービスサイト等は各社の商標、及び登録商標、または著作物であり、それぞれの会社に帰属します。
※本カタログの記載事項は予告なく変更になる場合がございます。

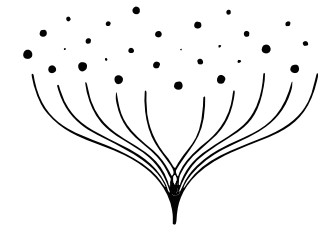
2026年8月版



ビープラッツ株式会社

<https://www.bplats.co.jp/>

本 社：
東京都千代田区神田練堀町3 ヒューリック秋葉原タワービルディング15階 〒101-0022
ビープラッツ・サブスクリプションセンター（BSC）：
福岡県北九州市小倉北区浅野3丁目8番1号 AIMビル6階 COMPASS小倉203 〒802-0001
●Tel(代表): 03-6262-9434 ●Fax: 03-6262-9439



AMANEX





あまねく、たどりつく。
Everywhere, everything, within reach.

長く運用されてきたシステムほど、機能追加や改修の積み重ねでソースコードは巨大化し、「全体を理解している人」に依存しがちになります。AMANEXは、巨大化・属人化した既存コードとナレッジを構造化ドキュメントへ自動変換し、設計理解・継続開発・レガシー刷新を非属人的に支えるAI駆動開発支援基盤です。出来上がった設計ドキュメントは人とAI共通の参照点となりお互いが協調して開発を進める礎となります。

また、AI駆動開発には「ドキュメントはもう不要」「分からないことはAIに都度聞けばいい」「必要ならドキュメントもAIが作ってくれる」といった間違った認識もみられますが、小規模のシステムであれば、AIに丸投げでも問題ない場合もあるものの、大規模商用システムでは、次のような問題が顕在化することが課題となっています。

- AIが継ぎ足すたびに構造の一貫性が崩れ、巨大なブラックボックス(スパゲッティコード)ができます。
- 都度AIに聞く方式には「探索の限界(浅い探索)」「ハルシネーション」「非決定性」「コスト増大」という限界があります。

実際にAIに対して、ソースコードを丸投げしてドキュメント生成をAIに任せられるかといった実検証を行うとファイルの網羅性や相互参照のエラーや、差分更新ができないなどの致命的な問題を引き起こします。

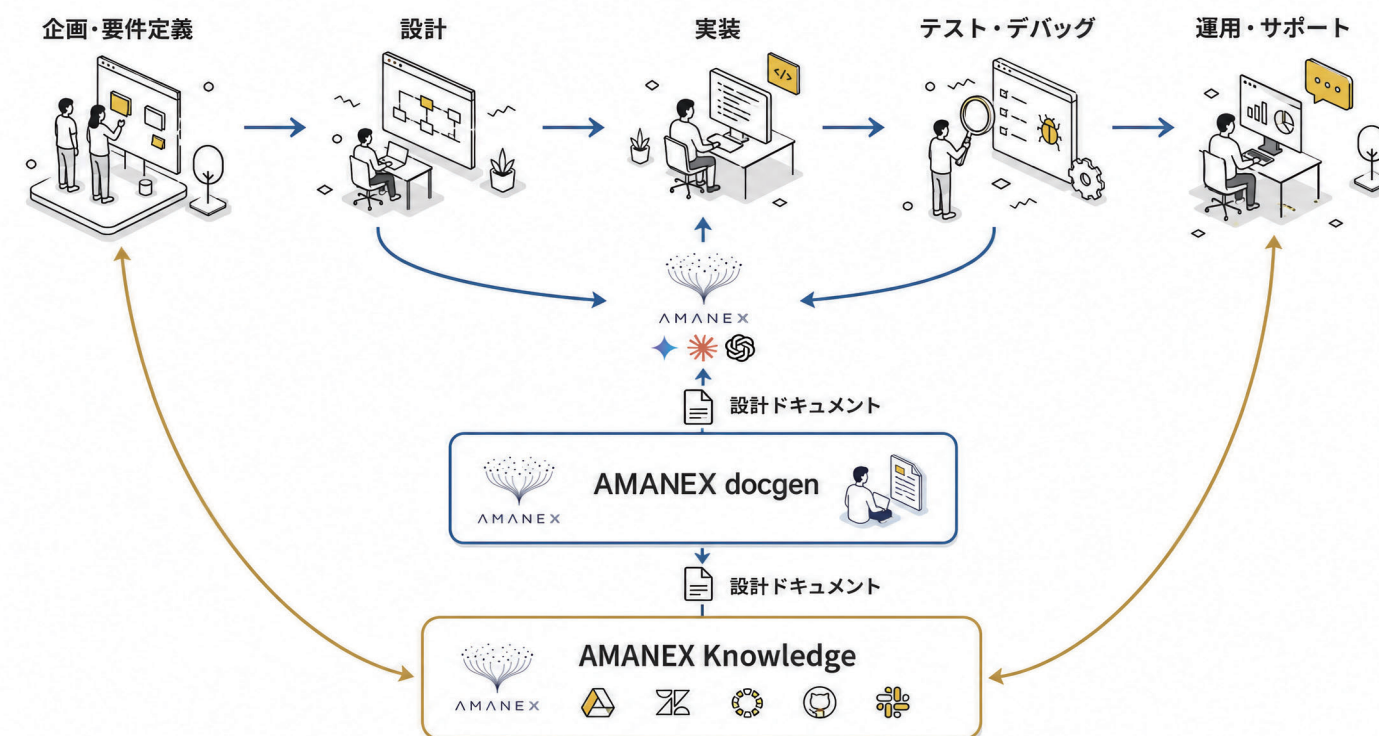
AMANEXでは、これらのAI任せによる欠点を機械的なチェックを自動化していることにより、設計ドキュメントを基盤として実運用が可能なレベルに向上させることが可能となります。

「AMANEX docgen」 設計支援基盤

巨大コードから設計ドキュメントを完全自動生成。属人的な設計知識を客観的なドキュメントへ変換し、機能拡張やモダナイゼーションの確実な足場をつくれます。

「AMANEX Knowledge」 知識支援基盤

社内に分散するナレッジを横断検索。必ず元となった文書の引用をエビデンスとして提示し、ハルシネーションを抑制した回答を生成します。



2つの基盤の統合活用 — AI駆動開発の全フェーズを支える統合インフラ

2つの基盤はそれぞれ単独でも使えますが、docgen が生成した設計ドキュメントをKnowledge の知識ベースにも取り込むことで活用の幅が広がります。土台となる docgen の構造化ドキュメントに対し、Knowledge がエビデンス付きで問い合わせに答える——この組み合わせにより、企画・要件定義から設計・実装・テスト・運用サポートまで、AI駆動開発の全フェーズを一気通貫で支援します。生成された構造化ドキュメントを既存の AI Agent の「入力」として活用することで、エントリポイント問題の解消(トップダウンで必要な箇所を特定)、ドキュメントに沿った安全な変更(明文化された仕様の参照でシステム破壊を抑止)、他ドキュメントとの横断活用(Redmine・Zendesk・Google Driveなどと併用した運用サイクル全体の支援)が可能になります。